

第4回（仮称）もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 議事概要

日 時

令和5年（2023年）8月4日（金） 13時30分～15時30分

場 所

厚別区役所 2階会議室A・B（札幌市厚別区厚別中央1条5丁目3-2）

出席者

<検討委員会委員>（順不同・敬称略）

北星学園大学 経済学部 経営情報学科 教授	鈴木 克典	委員長
札幌学院大学 人文学部 人間科学科 准教授	新田 雅子	委員
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事長	小高 咲	委員
(株)Localize 代表取締役	庄田 健助	委員（※）
(株)ホクノー 代表取締役社長	野地 秀一	委員
札幌もみじ台西郵便局 局長	杉下 圭史	委員
SOC(株) 代表取締役社長	朝倉 由紀子	委員
もみじ台自治連合会 会長	東 健二郎	委員
もみじ台まちづくり会議 副議長	高澤 英治	委員
あつべつ区民協議会 委員	二峰 章	委員
もみじ台市営住宅自治会連絡協議会 会長	須貝 淑郎	委員

※庄田委員はオンラインで参加

<事務局>

札幌市 まちづくり政策局 都市計画部 地域計画課	調整担当課長	林 久哲
〃	調整担当係長	大宮 弘之
〃	調整担当係	山本 郁也

<関係部局>

札幌市住宅課、札幌市教育委員会、厚別区地域振興課、もみじ台まちづくりセンター

配布資料

- 会議次第
- 資料1 （仮称）もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 委員名簿
- 資料2 第4回（仮称）もみじ台地域まちづくり指針検討委員会 座席表
- 資料3 もみじ台まちづくりニュース No. 3
- 資料4 「もみじ台地域まちづくり指針の検討に関するオープンハウス」開催結果
- 資料5 もみじ台地域まちづくり指針（案）<概要版>
- 資料6 もみじ台地域まちづくり指針（案）

議事概要

1 開会

開会あいさつ

2 事務局説明

事務局より、資料3もみじ台まちづくりニュースNo. 3、資料4「もみじ台地域まちづくり指針の検討に関するオープンハウス」開催結果、資料5もみじ台地域まちづくり指針（案）〈概要版〉、資料6もみじ台地域まちづくり指針（案）について説明。

3 意見交換

〈東委員〉

- 義務教育学校の設置については、もみじ台地域の人口減少・少子化の進行を理由に地域内の各学校を統合して新しい学校を設置してもらいたいということではなく、若い人たちが魅力を感じる将来性のある学校、例えば英語教育とかIT教育とか色々あると思うが、特色のある義務教育学校をつくってほしいという思いを持っている。このことを指針にうまく表記してもらいたい。

〈高澤委員〉

- 資料5もみじ台地域まちづくり指針（案）〈概要版〉の2-1-(1)に令和3年までの人口推移が記載されているが、指針において将来の人口推計は考慮されているか。
- もみじ台南中学校の跡地活用について、指針策定後の地域との調整に時間を要するのであれば、一時的に何らかに転用するという事は考えられないか。

〈事務局〉

- 本指針は、今後の土地利用再編を見据えたまちづくりの方向性を示すものであり、具体的な人口推計の目標値等は示していない。なお、今後、全市的に人口は減少する見込みであるため、もみじ台地域でも大幅に人口を増加させることは難しいと考えている。このことから、まちづくり指針においては、全市的に人口減少が見込まれる中、持続的な地域コミュニティを形成できるよう、多様な世代の流入を図ることを基本的な考え方としてまちづくりを進めていくこととしている。
- もみじ台南中学校の跡地活用については、4-2公共施設に関する方向性に記載しているように、本指針策定後すぐに地域住民の意向を確認しながら検討を進めていく考えである。

〈須貝委員〉

- 今後民間活力の導入ということも想定しているが、数年前にもみじ台地域から銀行が撤退した。高齢化が進み、営業していくのがなかなか難しい状況になったのだろうと聞いている。
- 新たなまちづくりが進み、もみじ台地域が再編され若い世代が増えたとしても、40～50年後には、高齢化が進んで今と同じような状況になりかねない。このようなことが繰り返されることのないように、世代交代を意識して、有効な土地利用を考えていかなければならない。

- 地理的な条件も考慮すると産業を誘致するのは難しいと思うので、居住機能、教育文化施設、学術研究機関などを将来的に誘致できるようなまちづくりを進めていくことが大切ではないかと思う。
- 義務教育学校については、例えば英語に力をいれた教育など色々な分野があると思うが、特色のある学校とし、世代が変わっても若い世代がもみじ台に流入してくる、希望をもてるようなまちにしていくべきではないかと思う。

<小高委員>

- 須貝委員の意見はもっともだと考える。50年先までの持続性に関する観点を表現できればと思う。

<東委員>

- 地域住民は、市営住宅の更新や義務教育学校など早く事業に着手してほしいと思っている。指針策定後すぐに具体的な計画を立てて事業にとりかかるといった意味合いの表現はできないだろうか。

<事務局>

- 指針では、5土地利用再編に向けたロードマップとして、指針策定後は土地利用再編に係る具体的な計画やスケジュールを示す土地利用再編方針をとりまとめ、順次段階を踏みながらまちづくりを進めていく考え方を示している。
- まずは、本指針で今後のまちづくりの方向性を示し、もみじ台地域が変わっていくというメッセージを早期に打ち出すことが重要と考えている。
- 札幌市としても、早く取り組んでいきたいとの考えを持っているが、指針において早期にということに記載することはなかなか難しいと思っている。地域のご意見として、今回の委員会の議事録にも残していきたい。

<杉下委員>

- 指針の内容自体はこのままでよいと思うが、記載内容が多岐にわたるため、もみじ台地域を「どういうまち」にしたいのか、という意図が端的に伝わりにくいように思う。
- 3-1まちづくりの基本的な考え方が、「どういうまちにしたいか」を表現している部分になるが、指針の案の記載では淡白すぎると思う。どんな世代が住んでも安心なまちだとか、多少文章が長くなってもよいので、「どのようなまちを目指すのか」がわかるような内容になればよい。

<野地委員>

- 指針の内容は様々な方向性を網羅しておりよいと思うが、やや絵花的な印象がある。
- もみじ台地域は高齢化が進んでおり生産年齢人口も少ないため、若い世代の流入を重点的に考えるべきであり、若い世代の流入につながるまちづくりの方向性を加えることができればよい。
- 義務教育学校は、若い世代が住みたいと思えるような特色ある教育(英語、IT、スポーツなど)

が受けられるような学校が望ましい。

- 市営団地の建て替えに当たっては、エレベーターやクーラーを設置するなど暮らしやすさに配慮してもらいたい。

<朝倉委員>

- 別の教育関係の会議で、現在の小中学生は将来の夢が見つからない児童・生徒が多いと聞いて大きな問題だと感じている。
- 企業としてできることもあると思っており、義務教育学校が設置されるのであれば、特色の1つとして、もみじ台地域と隣接するテクノパークと連携して実際の仕事の見学、体験をできるようにしてはどうか。外国人も多く働いており、英語教育だけでなく、他国の文化なども知ることができる。こうした特色のある教育活動をできるように連携し、子どもたちが将来の夢を見つけるきっかけになればよい。
- もみじ台地域とテクノパークの連携は、目標②-7)にも記載があるとおおり、職住の関係など、どんどん連携していきたい。例えば、テクノパークで働く方の中にはもみじ台に住みたいと考えている方もいる。また、数カ月だけ出張で来る方がもみじ台に住みながら会社に通うというような働き方もできたらよい。
- 若い世代にもみじ台地域に来てもらいたいので、魅力ある施設などがあるとよい。また、新札幌駅ともみじ台地域が近接していることもアピールポイントの1つになると思う。

<小高委員>

- 3-1まちづくりの基本的な考え方について、杉下委員が仰るとおり、やや淡泊な印象を受ける。須貝委員が仰ったように、自律的に新陳代謝を実現できるようなまちを目指すみたいなことが伝わるようになればよいのではないかな。

<須貝委員>

- 地域住民、特に市営住宅の住民にとっては、いつ頃市営住宅が建て替えになるのかという点が最も気になっている。土地利用再編方針では、何年度を目標に動き始めるなど、大まかでも結構だが、なるべく早くスケジュールを示すことが重要だと考えている。

<二峰委員>

- 色々な都市の事例をみると、再開発に10~20年を費やして実施している事例が多いが、もみじ台地域でそれだけ時間をかけてしまうと、人口減少が進行してしまい、再開発も難しい状況になってしまう可能性があるため、できることから何とか手をつけられないかと思う。
- 義務教育学校については特色ある学校を設置しなければならない。例えば、岡山県の総社市（そうじゃし）や石川県羽咋市（はくいし）では英語教育に力を入れている。世界に通じる人材を育成していけるように、義務教育学校では英語教育に力を入れていくのはどうか。
- 指針とは別の話題になるが、今後成長が期待されるIT・バイオ産業の関連企業を誘致できるようにテクノパークの範囲をもみじ台地域全域まで拡大するのはどうか。

<小高委員>

- 特色ある義務教育学校の設置には賛同するが、その特色となる取組は必ずしも英語教育でなくてよいと思う。AI を利用した自動翻訳システムなどが発達しているため、英語教育に拘らずともよいのではないか。

<二峰委員>

- 安平町にある小中一貫校の早来学園は、札幌市でいうまちづくりセンターなど、色々な公共機能が学園内に複合化している。もみじ台地域においても、義務教育学校はまちづくりセンターなどの施設も合わせた学校になると思うが、是非参考にしてほしい。

<庄田委員>

- 今回の指針はまちづくり全体の方向性を示すものであるため、やや総花的になることはやむを得ないと思う。札幌市の政策にしっかり位置付けられて指針が策定されることが、まずは大きな一歩になる。地域がつくったまちづくりビジョンをもとに方針が整理されることも最大の特徴である。
- 土地利用再編方針の検討においても地元住民の意見が重要になるので、まちづくりビジョンの時のように行政が動く前に住民主導で土地利用に関する提案を出していけるとよい。

<新田委員>

- 今回はまちづくり指針という大きな方向性を示すものであるため、個別具体の話をする段階ではないのかなと思っている。
- 難しいとは思うが、5土地利用再編に向けたロードマップに、少しでも具体的な見通しが表現できれば、市営住宅にお住まいの方々の不安も少し軽減されるし、この指針も前向きに受け止めてもらえるのではないか。

<鈴木委員長>

- 指針（案）は非常によくまとまっている。
- 4-3土地利用再編イメージは、まちづくりビジョンをはじめとする地域住民の意見を反映しつつ、当委員会でも議論してきた内容に沿った、皆さまにも納得いただけるキーワードとなっていると思われ、よいと思う。
- 事務局からは何かあるか。

<事務局>

- これまでの議論でいただいたご意見について、本指針で示すことができる内容はできる限り盛り込み、土地利用の方向性としてはゾーニングという形でもお示しさせていただいた。個別具体の取組や事業に関するご意見については、指針策定後の土地利用再編方針などの検討につなげていきたい。
- 3-1まちづくりの基本的な考え方については、若干言葉足らずというご意見もいただき、今回の意見を参考に再検討したい。

<鈴木委員長>

- 関係部局からは何かあるか。

<教育委員会>

- 本日の委員会を通じ、義務教育学校に対する地域の期待の大きさを感じた。
- オープンハウスでも、未就学世帯の方や小中学生の保護者の方からは義務教育学校への期待の声を伺っており、期待に沿えるよう取り組んでいかなければならないと思っている。
- 地域の特色を活かした学校教育により、子どもたちが夢や自信を持てるようにしたいなどといった思いは共通していると思っており、今後、地域住民の皆さまと意見交換を行いながら学校づくりを検討していきたいと考えている。

<東委員>

- 学校は学校に任せたという事ではなく、住民も学校と一緒にあって、話し合いをしていくことが大事だと考えている。
- 現在、一部の市営住宅で外壁改修工事を実施しているが、改築までまだ時間がかかるのかと落胆している住民もいる。市営住宅を早く改築整備してもらいたい、ということが地域住民の願いである。

<住宅課>

- 当部署では市営住宅にお住いの皆さまの声を直接聞いており、この委員会で伺ったご意見も含め、希望や不安を持っていることは承知している。
- 外部改修工事は建物維持に必要な工事であり、住民の皆さまにもご協力いただきながら行っている。今年は特に気温が高く不便をかけてしまっているが、ご理解いただきたい。
- 市営住宅の建て替えはまちづくりの方針に基づき、まちづくりと連携しながら進めていきたいと考えているため、引き続きご理解とご協力をいただきたい。

<鈴木委員長>

- 他に意見はないようなので、今回の委員会はこれにて終了としたい。
- 本日お示しいただいたまちづくり指針(案)は、これまで当委員会で意見交換をしてきた内容を踏まえ、また本日もご意見を伺いましたが、全体的に方向性を共有できたと思っている。
- 委員の皆さまには概ねご賛同いただき、当初の予定どおり、今回の会議で検討委員会としては一定の目処がついたものと考えてるので、今後の検討状況については、事務局から適宜情報共有を図ってもらいたい。
- 今回の意見を踏まえた修正については委員長預かりとさせてもらい、事務局と調整した上で皆さまに情報共有することとしてよいか。

<全委員>

- よい。

4 事務連絡

- 本日の議事概要はホームページにて公開する予定であり、公開前に議事概要をご確認いただきたい。
- 本日の委員会の結果は、これまでと同様にまちづくりニュースにまとめて地域にお知らせする。
- 今後は、今年度中に指針を策定することを目指し、その前には市民の皆さまから広くご意見を伺うパブリックコメントも実施する予定。
- 委員長から話があったとおり、検討委員会は今回を以って委員会形式としては一旦の目途と考えているが、本日のご意見を踏まえて一部調整が必要なものは、委員長と協議・調整の上で報告させていただくなど、今後も状況に応じて適宜委員の皆さまに情報提供し共有していく。